

桜歯 ニュース

2019. 10. 15
VOL.204



日本大学歯学部ホームページ： <http://www.dent.nihon-u.ac.jp/>



歯学部の教育に求められているもの

研究担当 佐藤 秀一

いま「教育」が日本の大きな課題となっています。来年度より実施される教育改革では、これまでの「知識の習得」を中心とした教育から「知識の活用」を目指す教育への大転換を迫られています。歯学部では歯科医師の育成が前提となるので、国家試験合格のために知識の習得は教育の中心事項となります。しかし、昨今の国家試験問題は知識の習得だけでは対応できず、知識を活用できないと対応が難しい問題が多くみられます。

知識を活用するためには「思考」(学んだことを具体的な場面に当てはめる)、「判断」(学んだことをもとに、これからどうするかを見つける)、「表現」(学んだことをもとに、ほかの人にアドバイスする)することが必要になります。知識の活用に最も適した学習法は「アクティブラーニング」です。アクティブラーニングとは、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法のことです。具体的には発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効な方法と考えられています。

歯学部では、知識の習得だけでなく知識の活用を考えたアクティブラーニングが多く実践されています。しかし、まだ教育効果が十分に現れていないと思われます。教員はさらなる教育力の向上を目指さなければならないと考えます。

(教授 歯科保存学第Ⅲ講座)

第1回FD講習会 「国家試験出題基準を授業に どう生かすか」

教学推進センター運営委員会 米原 啓之

今回のFD講習会においては「国家試験出題基準を授業にどう生かすか」のテーマに基づき以下の3講演が行われました。

まず、「国家試験出題基準とは」として、学習支援委員会副委員長米山隆之教授により、歯科医師国家試験出題基準の概念や必修の基本的事項、歯科医学総論および歯科医学各論など各分野の構成、さらには今回行われた改訂のポイント等について解説が行われました。また、関連するモデル・コア・カリキュラムおよびブループリントについても解説が行われ、これら出題基準等の内容を踏まえて実際の授業においてどの様に利用するかについて説明が行われました。

ついで教学推進センター運営委員会委員長米原が「低学年における教育」として、各種推薦や校友子女入試などによる早期合格者における学習意欲維持の問題、入学してきた学生における理科学力差および入学後における系統的な学習の必要性について説明を行いました。さらに、初年次教育において取り組みが始まっている入学前教育、リメディアル教育の



自然科学演習と個別学習支援について具体的な内容を紹介しました。

最後に学習指導委員会委員長今村佳樹教授から、「高

学年次における教育について」として、5、6年次の学生の現状と今まで行われた国家試験結果の分析から認められた問題点とその対策の説明がありました。具体的な対策としては、Macro対応として学務委員会、学習指導委員会を中心として学部全体で行っていく対策、Middle対応として講座・診療科において担当領域についての対策さらにMicro対応として各教員が教育内容を検討すること等について講演が行われました。

本講習会の内容を踏まえて、今後教員が入学当初から専門歯学教育までの一貫した歯学部における教育をどの様に組み立てて行くのかについて、十分な理解と情報共有が出来るようにしていきたいと思えます。
(教授 臨床医学講座)

付属歯科病院のいま、 そしてこれから

病院長 飯沼 利光

日本大学歯学部付属歯科病院は平成30年10月1日、歯学部創設100周年記念事業のひとつとして建設された本館にて診療を開始しました。この本館は地下2階、地上7階となっており、その1～4階を歯科病院の診療スペースとして使用しています。開院して1年が経過いたしました。多くの患者様からは「清潔感があふれている」「患者さん目線で多くの工夫がなされている」など、受診しやすい病院として高評価をいただいております。例えば、診療エリアでまず目を奪うのは病院エントランスです。広々としたエントランスには患者さんが休めるソファを配置し、治療を受ける、あるいは診療後にひと休みできるよう配慮しています。同様に各階の診療スペースも、患者さんの動線に配慮し設計がなされ、最新の医療設備が確保されています。このような充実した診療環境にて、多くの患者さんに良質な歯科医療の提供を行うとともに、スチューデントドクター（院内生）への充実した歯科医学教育を行っています。

この新病院への移転は、付属歯科病院に様々な好効果をもたらしています。その一つに、受診患者数の増加が挙げられます。旧病院では1日、およそ800人の患者さんが受診されていましたが、新病院移転後1年を経過した現在では、1日1000人を超える日もあります。

そして今後、更なる飛躍のため取り組んでいこうと考えているのが、患者さんが診療を受ける際の選択として、本学部付属歯科病院をファーストチョイスとしてもらうことです。現在の歯科医学・医療の進歩には目覚ましいものがあります。しかも、多くの情報を患者さん自らがインターネットなどを通じて得ることができます。そのため、100年以上の伝統と多くの優秀なスタッフを有する本歯科病院でさえ、すべての診療行為



においてトップの診療実績や医療水準を維持することは、残念ながら設備や資金などの面からも困難です。そこで、私たちが秀でている、あるいは他の追随を許さない診療分野を明らかとし、これを社会に広くアピールすることにより、より多くの患者さんから今以上の評価を得なければと考えています。そして、これからも患者さんから信頼され、OBの先生方そして歯学部生やそのご家族の皆さんから誇りに、そして愛される歯科病院であり続けるよう努力してまいります。

(教授 歯科補綴学第I講座)

The 97th General Session & Exhibition of the IADRに参加して

田村 宗明

2019年6月19日より22日までカナダ・バンクーバーで開催されたThe 97th General Session & Exhibition of the IADR（第97回国際歯科研究会会議）に参加し、新規抗菌成分が口腔真菌のカンジダに及ぼす抗菌効果についての発表をしました。

バンクーバーは1999年のThe 77th General Session & Exhibition of the IADRで訪れましたが、それ以前の1995年から2年間、日本大学海外派遣研究員ならびに日本大学歯学部佐藤研究費・海外派遣研究員として滞在していた懐かしい場所です。学会場はダウンタウンの北にあるコンベンションセンター西館で、目の前にはカナダプレイスが建っています。IADR

は基礎系、臨床系、社会系などすべてが集まる世界最大級の歯科学系国際学会で、多岐に渡る演題、最新の知



見と各国の研究者の熱意に驚かされるとともに、他国の参加者から大いに刺激を受けました。過去、国内での学会や研究会には定期的に参加して発表には多少の自信がありましたが、準備していくうちに英語に対する不安が浮かび上がってきました。案の定、発表および質疑応答において自身の英語力の不十分さを痛感し、もっともっと磨かなければと強く感じました。しかしながら、これに懲りずにまた海外の学会に参加したいという意欲も増しました。今回の参加はとても貴重な経験となり、得られた経験を今後の研究にうまく生かしていければと思っています。

学会後、市内観光に出かけました。街中では以前よりもアジア系人種の比率が増し、コミュニティーエリアも違う地域に移動していたのには驚きました。有名なマーケット、グランビルアイランドには昔、訪ねた店がまだあり感激しましたが、当時食べたメニューはすでになかったのは残念でした。留学先であったブリティッシュコロンビア大学（UBC）では研究室のあったビルは他の学部の管轄へと替わっていましたが、外見や内部はまったく変わっておらず、20数年前の記憶がよみがえって非常に懐かしく感じました。

（准教授 細菌学講座）

第97回国際歯科研究学会 (IADR)に参加して

辻本 暁正

2019年6月19日から22日の4日間に亘り、カナダ・バンクーバーにおいて第97回国際歯科研究学会 (IADR) が開催されました。IADRは世界最大の学際的な歯学系学会であり、その総会・学術大会には毎年世界中から研究者が集結します。



私が初めてIADRに

参加したのは、2009年に米国・マイアミで開催された第87回大会でした。当時、全くの駆け出しの研究者であった私は論文で名前をよく見る海外の著名な研究者の発表を直に聞くことができ、時としてface to faceで話をする機会にも恵まれるIADRにすっかり魅了され、今回の学会に至るまで、可能な限り参加してきました。

今回のIADRにおいても、私が所属するDental Materials Group（会員：約1,000名）から全体演題数の約15%に上る研究発表が行われ、国際的に歯科材料研究への関心の高さが伺われました。

私は、“Bonding Performance of Experimental Universal Adhesives to Different Substrates”という演題での発表とともに、米国クレイトン大学歯学部との共同研究として4題の発表を行いました。米国クレイトン大学歯学部は私の留学先であり、恩師であるWayne W. Barkmeier教授およびその門下生と再会し、現在進行中の研究についてのディスカッションを行うことができました。また、20日夕方には、本邦を代表する歯科材料メーカーであるGC社のサポートによるJapan Nightが開催され、世界各国からの参加者が一堂に会し、学会場では得られない情報を交換しあうとともに親交を深めあうひとときとなりました。

このような国際学会への参加は、最新の研究動向の把握とヒューマン・ネットワーク形成に大いに役立つ機会であり、本学部からさらに多くの研究者がこれから開催されるIADRで活躍することを期待して掲筆する。

（助教 歯科保存学第I講座）

令和元年度 教学課題研修会報告

学務担当 今村 佳樹

令和元年8月9日に令和元年度教学課題研修会が、3号館第5実習室で開催されました。本年のテーマは、「国家試験問題につながる診療参加型臨床実習の指導方法の在り方を考える」でした。このように臨床実習にかかわるテーマであったため、ワークショップ参加者としては臨床系の教員25名を選出し、運営スタッフ11名が加わって執り行われました。

ワークショップでは、各教育診療科別に指導方法について過去の歯科医師国家試験の結果から得られたデータをもとに、グループディスカッションを行い、それぞれの専門性に応じてどうすれば効果的な教育が行えるかの検討が行われました。ワークショップの後半では、各班の代表者によってプレゼンテーションが行われ、学生が苦手としている項目を次年度の指導要項に反映してゆくことが発表されました。

臨床実習は、歯学部学生にとって、実際の患者さんに接する大変に貴重な経験の場であり、歯科医師国家試験における臨床問題に直結した知識、体験を得る唯一の機会です。この貴重な時間を漫然と過ごすのと、歯科医師国家試験を意識して体験実習するのは、国家試験の受験勉強を行う上での理解度に大きな違いが生じることは明白です。約8時間に及ぶワークショップも、参加者全員の情熱に満ちたディスカッションで極めて短く感じられました。

すべてのグループからなされた発表の中に、日常の臨床実習指導における、学生の目線に合った説明、指導の重要性が確認できました。国家試験問題を意識した質問を常に意識することで、学生の意識、意欲は大きく向上すると考えられます。臨床実習の場で、学生さんに意欲を持って効果的に学習してもらえるか、そのためには、学生自身の取り組みももちろんですが、私たち教員の取り組み、工夫がいかに重要かについて、熱く語り合われました。毎日の臨床実習において、これらの確認事項が実行されれば、必ず学生の意欲向上と知識、体験の成熟が図られると考えます。

(教授 口腔診断学講座)



神尾 宜昌

本年8月9日に教学課題研修会が開催されました。本研修会は、教員のFD (Faculty Development) 活動の推進を目的に、学務委員会、歯学部FD委員会、臨床実習運営協議会など多くの委員会と合同で毎年開催されています。本年は「国家試験問題につながる診療参加型臨床実習の指導方法の在り方を考える」をテーマに、40名が参加しワークショップ形式で行われました。

本学部の教学における喫緊の課題のひとつに国家試験合格者数の引き上げがあります。近年の国家試験は、診療参加型臨床実習で得た能力を評価するための問題が出題されるようになっており、これまで以上に臨床実習が重要になっています。この国家試験において、正答率が本学部と全国で大きく乖離している問題が一部あります。そのため、臨床実習の教育・指導内容などに改善しなければならない点があることが考えられ、今回のテーマが設定されました。

まず本田和也学部長が本学部の置かれている状況について率直なお気持ちをお話しされ、研修会がスタートしました。コーディネーターの野間昇先生より趣旨説明、学習指導委員会の林誠先生と筆者からは国家試験の分析結果等について説明がありました。その後、各教育診療科に分かれ、国家試験問題の抽出・分析、ならびにそれに基づいた実現可能な対策方法について議論が進められました。最後に教育診療科ごとに成果報告があり、活発な質疑応答が行われました。今後、教育診療科ごとにプロダクトのブラッシュアップを行い、その成果は次年度以降の臨床実習に反映される予定になっています。

(准教授 細菌学講座)



3Dプリンター製模型を利用した歯の解剖学実習

山崎 洋介

歯の解剖学実習では旧来の歯のスケッチやカービングに加えて、新しいテクノロジーやトピックを積極的に取り入れて実習を構成してきました。平成20（2008）年度からは、パソコンで歯のCT断層像とレンダリング像を閲覧・操作する実習を開始し、平成30（2018）年度にはそれをiPadで行える仕組みを提供しました。今年度は、3Dプリンターで作製した歯の模型を実習に取り入れました。

Additive Manufacturingを担う3Dプリンターは工業的にも重要ですが、一般・ホビー用途、細胞を臓器のかたちに配列させるバイオプリンター、あるいは歯科技工用途など様々な分野で、研究・普及・応用が進んでいます。今般、液体レジンレーザー光で凝固させるSLA方式と、プラスチックフィラメントを融解しながら積層するFDM方式の機械を導入しました。前者は、サージカルモデル、作業模型、スプリント、キャストブルなレジンパターン、インプラントサージカルガイドなど様々な技工物も出力できる機種で、それによる歯の模型は精度が大変良好です。後者は、比較的大型の造形物を安価に出



力することが可能で、試作品や歯の拡大模型の出力などに適します。これら模型は、カービングの手本や教材としての提示、技術デモ等の目的で実習での利活用を開始しました。また、アーリーエクスポートとして、デジタルデンティストリーのワークフローを理解する端緒にもなると期待しています。これら3Dプリンターによる模型の教育効果の検証はもちろんのこと、新しいテクノロジーで未来の医療を切り開いていくマインドとアイデアを涵養できる基礎実習とすべく、教育内容改善の不断の検討を続けて参りたいと考えています。

(准教授 解剖学第Ⅱ講座)

令和元年度 新任教員FDワークショップ

間中 総一郎

本年5月18日に日本大学会館にて、「令和元年度新任教員FDワークショップ」が開催された。本ワークショップは日本大学FD推進センターが新規採用教員を対象に、『高等教育を取り巻く環境の変化、大学教員の役割・責務を認識すると共に、日本大学の教育理念及び教学施策を理解し、自主創造の観点から各教員が教育力向上の担い手となること』を目的に毎年開催されている。歯学部からは私を含めた12名の新任教員が参加した。

前半は本学部医療人間科学分野中島一郎教授より、「日本大学教育憲章を基盤としたシラバス作成のワークショップ」という題目でご講演を賜った。次に、参加者は各グループに分かれ、7-8名でグループディスカッションを行い、「初年次新シラバス作成」をテーマにKJ法でカリキュラムプランニングを行った。中島教授を含めた各学部の先生方と意見を交わし、「カリキュラムプランニングの基礎事項」や「自主創造型パーソン育成の意義」について多くの知見を得る事ができた。また、グループディスカッション後の各班のプレゼンテーションでは別の視野からの考え方を学び、短い時間でしたが有意義な時間となった。

後半は日本大学FD推進センター副センター長である松戸歯学部河相安彦教授より、「日本大学の教育と教育改善活動」という題目でご講演を賜った。講演では求められる大学の姿と問題点に着目し、教育改善や改革に本大学がどの様に展開・動向しているかを「日本大学教育憲章」に基づき学んだ。学部の枠を越えて大学の教職員が共通の教育認識を持つ事は重要で、大学の教育理念に基づく授業法の指導は講義を行うにあたり勉強になった。歯学部の教員として自主創造の理念を備えた歯科医師の育成に貢献できる様に日々尽力していく所存である。

(助教 歯科保存学第Ⅲ講座)



ラオス・ヘルスサイエンス大学 歯学部へ出張して

江島 堅一郎

本学の「理事長特別研究」の一環として、2019年6月22日～25日にラオス人民民主共和国（以下、ラオス）にあるヘルスサイエンス大学歯学部（以下、ヘルスサイエンス大学）へ新井教授とともに出張いたしました。ラオスは東南アジアのメコン川上流に位置する国で中国、タイ、ベトナム、カンボジアと国境を接し、人口は500万人ほどの国です。日本からは、バンコク経由で約9時間の距離です。ヘルスサイエンス大学には12年前、本学が開発に携わったデジタルX線パノラマ装置（以下、パノラマ）を当時の大塚歯学部長が寄贈して以来、提携を結んで定期的に人的交流を行っています。このパノラマはラオス唯一の装置として12年間の長期にわたって稼働し、約3万症例の撮影を行い、現地の歯科医療に貢献してきました。2年前には、本学の技術支援によって、3次元画像診断が可能な最新歯科用X線CT装置（以下、歯科用CT）の稼働が開始されました。

この先端的な画像診断装置である歯科用CTも、ラオス国内で唯一稼働しているという現状を踏まえ、この装置を効率よく運用しラオス国民の歯科医療に広く貢献することが課題となっていました。この問題に対し、“自主創造”の精神のもと、本学が長年ノウハウを蓄積してきた「遠隔医療システム」を発展させ、現地環境に最適化されたシステム構築を試みています。

今回の出張では、主に昨年構築した遠隔医療システムと携帯情報端末との接続確認をおこないました。また、パノラマの老朽化による不具合に対して現地スタッフの協力を得て復旧作業を行いました。さらに、今回は遠隔医療システムを、外部の医療施設からタブレットやスマートフォンなどが接続できるようにサーバー設定と動作確認を行いました。また、その使用方法や管理について現地スタッフへ教育も併せ実施しました。

これにより、ラオス国内の開業医が患者さんの歯科用CTの撮影をヘルスサイエンス大学に依頼し、依頼医は自分のクリニックに居ながらにしてタブレットなどの携帯情報端末で撮影された画像を閲覧することが可能となりました。

パノラマが復旧し、加えて歯科用CT装置自身のメンテナンスも日本から遠隔操作で一括して閲覧および管理ができるように改修を加えました。これによりX線画像の管理が容易になりその操作性が格段に向上し

て、ヘルスサイエンス大学のスタッフから大変喜ばれました。

次のステップは、この遠隔医療システムを現地開業医の先生に対しプロモーションを行うこと、そしてシステムの円滑な運用が課題となります。この足がかりとして、ヘルスサイエンス大学内の大講堂でシンポジウムが開催され、新井教授は“歯科用CT”について講義を、私は“遠隔医療システムのハンズオンセミナー”を実施し啓発活動を行うことができました。出席者の中には開業医の先生や歯学部学生もおり、タブレットに表示される歯科用CT画像を興味深く閲覧していました。

今後は、現地の先生方が広く遠隔医療システムを利用して最先端の3次元画像診断を行い、ラオス国民に広く貢献されることを期待しています。前述したように、システムや機器が約10年以上前から安定して稼働しているのは、現地スタッフとの定期的な交流を通して、メンテナンス・教育などのソフトウェア面においてもサポートを継続しているところが大きな要因と考えています。今後はこの輪を広げ学生交流も盛んにし、本学から世界で活躍できる人材が多数輩出されることを期待します。

（専任講師 歯科放射線学講座）



歯科医学序論

三澤 麻衣子

『歯科医学序論』は第1学年の通年に渡って、「歯科医療とは何か」そして「現在の歯科医療のおかれている現状」を学ぶことで、将来なるべき歯科医師としての責任と役割について自覚することを目標としています。

前期に、「本学部が行っている研究を紹介し合う」という課題を行いました。学生それぞれが興味ある本学部の研究を調べ、グループにおいて発表しあうというものです。本学部に対する理解を深めるとともに、歯科臨床および研究分野を知り、将来を想像してもらうことを目的としています。専門知識が無い中で、歯科に関する研究を読み解くには、努力や工夫が必要となります。本教科において、本学部の教室や文献の調べ方の講義を簡単に行いました。そして、図書館職員に協力して頂き、図書館において学生へのアドバイスをお願いしました。

しかしそれだけでは課題をつくりあげることができません。学生たちは歯科医師である親や、教員、先輩に分からない内容を聞いたり、様々な本で調べたりと、多くの努力をして課題をつくりあげてくれました。

大学は、学生たちが新しい知識を教職員とともに作り出す場所だと思います。教員に聞くことだけで解決できるような単純なことを学ぶ場所ではありません。これからの歯科を創り、支える自覚を持って、分からないことにチャレンジする姿勢を忘れないでほしいと思います。課題を簡単に考えて提出した学生は、大学がどういうところなのかを再度考えてください。

優秀作品は図書館前と図書館HPに掲示しています。専門知識が無い第1学年が読み解いた本学部の研究をぜひみてください。6年後にもっとすごい研究を始める学生が現れるのを期待しています。

(専任講師 医療人間科学分野)



What I talk about when I talk about running

Murakami Haruki

Clive S. Langham

This book is good for people who want to achieve their goals and keep motivated. You do not need to be a runner or a writer to enjoy this book. Mr Murakami describes how he started running, how he trains, and takes part in marathons and triathlons. He also talks about writing novels. In



my job, I write a lot and, naturally, I was interested to read about how the author writes. He explains that he is frequently asked what is the most important quality for success as a writer. The answer, of course, is talent, but the problem is that talent is difficult to control. Sometimes it disappears, dries up or becomes erratic. He mentions two other qualities that are crucial for anyone with long-term goals. These are focus and endurance. If you can focus effectively, you can make up for a lack of talent. In today's busy and interconnected world, the ability to focus is critical. Improving our ability to focus is a key part of reaching our goals. Endurance means never giving up. It means that you are able to do something every day for long periods without getting tired or quitting. I think that for all of us the ability to endure even in the face of difficulties is also an important factor in reaching our goals.

The main message in this book is that reaching your goals is never simple, and that there are no shortcuts to success. To achieve your goals, you need talent, but equally critical are focus and endurance. This is a book that I have read and reread. It is a book I have recommended to a lot of people, most of whom have enjoyed it. This book is available in English and Japanese versions. For people who want to improve their English, it is a good choice as it is written in fairly simple English. It is also short, and small enough to fit into your coat pocket or bag. You do not have to read it from cover to cover. It is possible just to dip into it and read those parts that interest you. I think that this is a book that you will want to read and reread.

(教授 外国語分野)

第51回全日本歯科学生総合体育大会 総合成績

| 順位 | 大学名 | 得点 |
|-----|-------------|---------|
| 優勝 | 九州歯科大学 | 140.13点 |
| 準優勝 | 日本大学歯学部 | 126.00点 |
| 3位 | 愛知学院大学歯学部 | 113.00点 |
| 4位 | 日本歯科大学生命歯学部 | 105.50点 |
| 5位 | 大阪歯科大学 | 104.50点 |

本学部が得点した部門 (上位3位)

夏期部門

| | | |
|----|----------|-----|
| 1位 | 陸上競技 | 20点 |
| | 日本拳法 | 13点 |
| 2位 | バスケットボール | 16点 |
| | 剣道 | 16点 |
| | 水泳 | 15点 |
| | アーチェリー | 9点 |
| 3位 | 硬式野球 | 9点 |

冬期部門

| | | |
|----|-----|-----|
| 1位 | スキー | 19点 |
|----|-----|-----|

夏期・冬期部門の個人種目等入賞者

陸上部

優勝：峯村祐貴4年(男子200m)・入江亮輔2年(男子400m・大会新記録、男子800m、男子1500m)・相川慶郎4年(男子走幅跳)・市川熙5年(男子やり投げ)・大倉万莉菜2年(女子やり投げ)・市石茉愛1年(女子100m、女子200m)・相川徹郎4年/相川慶郎4年/峯村祐貴4年/金井敦紀3年(男子4×100mリレー)・村上ゆい2年/上地瑠璃子2年/須藤日菜子2年/市石茉愛1年(女子4×100mリレー)

準優勝：井上将一5年(男子3000m障害)・峯村祐貴4年(男子100m)・市川尚樹4年(男子800m、男子1500m)・須藤日菜子2年(女子砲丸投げ)・市石茉愛1年(女子400m)

3位：市川熙5年(男子砲丸投げ)・井上将一5年(男子5000m)・相川慶郎4年(男子三段跳び)・須藤日菜子2年(女子100m)・相川慶郎4年/市川尚樹4年/中島拓紀4年/入江亮輔2年(男子4×400mリレー)

日本拳法部

優勝：林隼太郎1年(男子新人戦)

準優勝：山口良輝5年(男子個人戦)

3位：濱田龍2年(男子新人戦)

スキー部

優勝：瓦井海年6年(男子大回転)

準優勝：瓦井海年6年(男子スーパー大回転、男子個人総合)

3位：瓦井海年6年(男子回転)

水泳部

優勝：手塚悠4年/松永彩4年/山崎由貴2年/河野令華1年(女子200mフリーリレー)

準優勝：松永彩4年(女子100m自由形、女子200m自由形)・手塚悠4年(女子50m背泳ぎ、女子100m背泳ぎ)・河野令華1年(女子50m自由形)・大山泰世1年(男子400m自由形)・河野令華1年(新人戦女子50m自由形)・大山泰世1年(新人戦男子50m自由形)・手塚悠4年/松永彩4年/山崎由貴2年/河野令華1年(女子400mフリーリレー)

3位：手塚悠4年/松永彩4年/河野令華1年/遠藤瑞季 衛3年(女子200mメドレーリレー)・手塚悠4年/松永彩4年/吉川智弥1年/大山泰世1年(混合200mメドレーリレー)・大山泰世1年(新人戦男子50mバタフライ)

洋弓部

優勝：小野寺博俊2年(男子個人戦)

準優勝：一ツ子綾乃1年(女子新人戦)

剣道部

優勝：田邊和3年(女子個人戦)

空手道部

準優勝：菅谷幸之介2年(男子新人戦)

ソフトテニス部

優勝：清水誠基5年/岩佐幸範2年(男子ダブルス)

ゴルフ部

優勝：朴法力1年(男子個人)

ヨット部

3位：西村大海3年/富樫尚樹4年/尾山修太郎2年(スナイプ級)

柔道部

優勝：新藤佑大1年(男子個人73kg級)

準優勝：中野仁人1年(男子個人81kg級)

3位：徳永陸斗1年(男子個人無段の部)

歯学体を終えて



正評議委員 吉田 浩子

第51回全日本歯科学生総合体育大会は福岡歯科大学の主管のもとに行われ、8月10日の閉会式をもって終了致しました。

今年の日本大学歯学部の順位は準優勝と、昨年の5位に比べ大躍進した結果となりました。

今年は例年通り入賞しているクラブだけでなく他のクラブが貢献してくれました。これは非常に嬉しい傾向にあると思います。来年もこの調子で、次こそは優勝を目指して頑張りましょう。

今年のデンタルに向けて、どの部員の方々も精一杯練習に励んできたことと思います。結果に満足いったクラブも、残念ながらそうでなかったクラブもあるかと思いますが、練習に励んだその過程はきっと今後の人生の中で大きな財産になると思っております。私自身も部活を通して様々な事を学ぶことが出来たと実感しています。私事ではありますが、デンタルでは思うような成績を残せませんでした。しかしデンタルに向けて一生懸命に取り組んだ事は決して無駄なことではなかったと自信を持って言う事が出来ます。例えば集中力、忍耐力など今の院内生活や今後大変になるであろう国家試験対策に必要なことや、さらには今後も関わっていく大切なクラブの仲間との絆を深める事が出来ました。

5年生は今年が最後のデンタルでした。1～4年生の皆さんも残りのデンタルを悔いの残らないように頑張っていて、最後には部活をやってきて良かったと思える事を願っております。

また、歯学体正評議委員として参加する最後のデンタルで、皆さんを代表して素敵な賞を頂いた事を嬉しく思います。最後になりますが、この一年間関わらせていただいた各クラブの皆様、ご指導いただきました先生方、ご支援いただいた後援会の皆様には大変感謝しております。この場をお借りして深く御礼申し上げます。(第5学年)

**優勝 陸上競技部**

主将 金井 敦紀

この度、陸上競技部は、昨年に続きデンタルで優勝し5連覇を達成しました。

連覇を重ねるにつれ、部員全員の優勝に対する思いや団結力が増し、今回は例年にも増して充実した練習ができたように思います。試合当日は猛暑のなか、一人一人の頑張りで2位に大差をつけて総合優勝することができました。今後も連覇を目指し、努力していきたいと思ひます。応援してくださった皆様、誠にありがとうございました。(第3学年)

**優勝 日本拳法部**

主将 山口 良輝

今年度のデンタルは松本歯科大学の主管で行われました。昨年の悔しさを胸にこの一年間、部員一同稽古に励んできました。結果は団体戦優勝、個人戦準優勝、新人戦優勝、新人戦3位といった喜ばしい結果で終えることができました。来年度のデンタルでは今年度以上の成績を目指すことを目標にこれからも稽古に励んでいきたいと思ひます。最後にお忙しい中、大会に携わっていただいたOB・OGの先輩方ありがとうございました。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。(第5学年)

**準優勝 バasketボール部**

主将 鬼澤 彩香

今年のオールデンタルでは男子は11位、女子は優勝、総合で準優勝でした。女子においては、一昨年、昨年に引き続き3連覇となり、応援していただいた皆さまのおかげであつたと深く感謝しております。来年は男子の優勝、女子は4連覇、男女で総合優勝を目指し、これからも日々の練習に全力で励んでいきたいと思ひますので、引き続きご支援ご鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。(第4学年)

**準優勝 剣道部**

主将 服部 匡史

“昨年の雪辱を”を合言葉に1年間練習してきました。あわや敗退と云う所まで追い詰められたり、辛い試合の連続でしたが、部員一丸となってこの危機を乗り越え、団体優勝、女子団体優勝、女子個人優勝という結果を勝ち取る事が出来ました。また、大会中、OBの先生方の応援とバックアップは大きな励みとなりました。優勝には、あと一歩届きませんでしたが、来年は優勝を目指して日々精進して行きたいと思ひます。(第5学年)

**準優勝 水泳部**

主将 尾崎 恵悟

第51回全日本歯科学学生総合体育大会において、水泳部は総合2位という結果に終わりました。昨年は歯学部4連覇を果たし、今大会での5連覇を目標に活動してまいりましたが、結果を残すことができませんでした。来年の王座奪還に向け練習に励みたいと思ひます。お忙しい中、日々の練習や各大会にお越し下さった先輩方ありがとうございました。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。(第4学年)

**準優勝 洋弓部**

主将 小川 将史

時代は平成から令和へと移り変わりましたが、洋弓部のデンタルは例年と何ら変わりなく、強い日差しが煌々と照りつける中で、の過酷な大会でした。とても厳しい環境でしたが、まずは、部員全員が無事に大会を終えられたことは何より誇るべきことです。そして、チームにもたらされた準優勝という輝かしい結果は、紛れもなく、部員皆の尽力の賜物です。50人を超える大所帯となった洋弓部。これからも一丸となって高みを目指して参ります。(第4学年)





クラス短信



第1学年 渡邊 琴実

入学から早くも半年近くが経った。前期の授業では、いくつも試験の重なる週があり、日々こなさなければならない課題の多さに正直驚いた。大学の試験では、高校の時とは違い友達同士お互いに協力し合うことが重要になると、先生方がおっしゃっていたのを覚えている。年々難易度が上がっている国家試験に合格するためには、自分の苦手な部分や友達の苦手な部分を補い合うことが必要不可欠なのだと思う。実際に私はこれまでの試験で、苦手な科目を友達に一から教えてもらったり、わからない点を先生に質問し、それを共有したりしてきた。また、部活動前は松戸の食堂で、休日には近くのカフェで友達と勉強した。これから先学年が上がるにつれ、さらに試験が多くなり勉強量も増えるが、仲の良い友達やクラブの仲間など、皆で切磋琢磨し合い乗り越えて行きたいと思う。

第1学年 春日井 大翔

今まで夏には良い思い出がありませんでした。2年間の医学部浪人を経験し、夏というのは追いかけるように過ぎ去る時間と、勉強をすればするほど課題が見えてきて底がないと痛感する季節だったからです。夢破れる形で入学した当初の私は、身も心もやつれ、とても夏を満喫できるとは思いませんでした。大学生活にすら不安を抱いていました。しかし、本学部で時を過ごしていくうちに心境が大きく変化しました。アイスホッケー部に入部し、スポーツの良さを文献からの情報ではなく、実体験として経験しました。合宿にも参加し、ゴールキーパーとしての役割がほぼ決まりつつあります。大学で出会った人々が少しずつ私を変え、夏が底冷えするような嫌な季節であるという認識が変わりました。今年は、夏特有の雨の音やセミの鳴き声に幼少期の懐かしさを感じることができました。後期も充実した時間を過ごしています。



第6学年主任 浅野 正岳

歯科医師になるという大志を抱いて日本大学歯学部入門をたたいたのも早6年前となりました。入学試験の時の面接で、「あなたはどんな歯科医師になりたいですか?」という問いに対してどのように答えましたか?小さい頃に自分自身が治療を受けたことをきっかけにという人も、あるいはまた、知り合いの歯科医師の後ろ姿に憧れてこの道を選んだという人もいるでしょう。歯科医師を目指した動機は十人十色です。しかし、それから今日までに、実に多くのことを学修してきたという経験はすべての学生が共有していることです。長いようで短い学生生活を通してあなたの理想とする歯科医師像はどのように変化したのでしょうか。

この記事が読まれる頃は、第113回歯科医師国家試験直前で最後の追い上げに余念のない頃ではないでしょうか。学生生活で得た莫大な知識を利用して、世のため人のために尽くせる日は目前に迫っています。6年間で得たものは学問的な知識ばかりではなく、多くの先生方や友人との付き合いを通じて知った人間関係の大切さだったのではないのでしょうか。第5



学年では院内実習を通じて患者さんとドクターの信頼関係の構築がいかに大切であるかを身に染みて感じたはずですが、こうして学んできた多くのことを土台として、歯科医師人生のスタートを切ることとなります。この先、出会う多くの患者さんに対していかに良質な歯科医療を提供することができるのか、また、どれ程に深い信頼関係を築くことができるのか。いよいよ諸君の実力が試されるときです。日大人の一員として恥ずかしくない立派な歯科医師に成長されることを心から願っています。

(教授 病理学講座)

山東大学歯学部短期研修を終えて

永井 佐和子



北京から新幹線で南に3時間程で、山東省の済南という都市に着く。山東大学は済南の中心部に位置しており、学部生だけで6万人を超える総合大学である。そして広大なキャンパスの一角に、歯学部の校舎と付属歯科病院がある。研修期間の前半は、ここで診療の見学や学生同士のプレゼンテーション、交流会等が行われた。山東大学歯学部の沿革、研究に対する取り組み、学生生活など多くのことを知ることができ、非常に刺激を受けた。また後半は、校舎から車で50分程離れた場所にある基礎系の研究室を訪問し、骨代謝研究室というゼミの学生や先生の発表を聴講した。

研修中、中国語や英語の意味がわからない場面、言葉はわかるが知識がないため、理解できない場面があった。なんとなく、わかったふりをしたり、頷くこともできたが、何がどの程度理解できなかったのかを相手に伝えることで、相手がこちらの理解度を知り、正しい知識を理解することができた。また、それにより新たな質問やコミュニケーションのきっかけとすることができた。当たり前のことであるが、言語や知識、文化の壁があることで、このことが、どれだけ重要であるかを身をもって体感できた。

わからないことにきちんと向き合うことは、学習への近道になると感じた4日間であった。

また、昨年の研修から参加したことで、山東大学の友人と再会できたことは嬉しい出来事だった。勉強のこと、大学生活のこと、お互いを励まし合うことで今後のモチベーションに繋がった。国際交流の意義は、ただ違う国籍の人と接することではなく、そのような経験を通じて自分が知りたいことを見つけ、学ぶところにあると感じた。

今回の研修に携わっている多くの方々への感謝の気持ちを忘れず、この貴重な経験の意義を今後の大学生活に活かしていきたい。また、来年度以降も本研修が実りあるものとして開催されるよう努力していきたい。
(第5学年)



SCRP

北野 晃平

2019年8月23日、令和元年度日本歯科医師会/デンツプライシロナスチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム (SCRP) 日本代表選抜大会に出場しました。

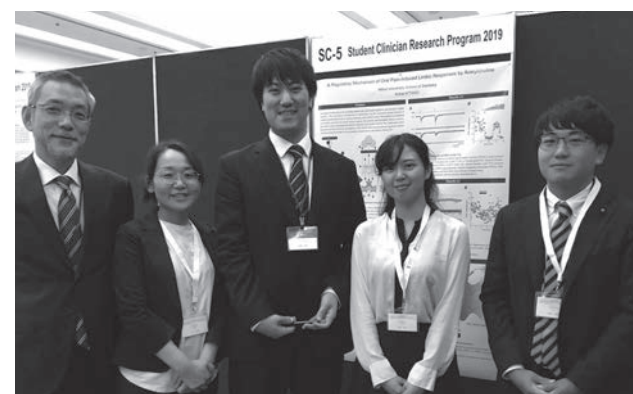
「口腔内の痛みによって生じる情動に対するアセチルコリンの調整機構」"A regulatory mechanism of oral pain-induced limbic responses by acetylcholine" を研究テーマに、薬理学教室にて小林教授、中谷先生のご指導の下、約1年半研究に励んでまいりました。

私の研究ではパッチクランプ法という手法を用いました。これには技術が必要で、実験動物の命をいただくことで成り立つ実験のため、覚悟を決めて始めました。最初は自分の知らない世界に足を踏み入れることができた喜びで毎日があつという間でしたが、進めていくと、わかっているのにできないという技術面の難しさに翻弄され苦しい時期もありました。自分で満足する記録を取るようになるまでに半年かかりましたが、すべての工程を自分で行って記録が得られたときの喜びはひとしおでした。その後もコツコツと実験を重ね、データ数を増やし、抄録の作成やポスター作成など初めてのことに戸惑いながらも、多くの先生方の助力のおかげで成果を結果としてまとめることができました。

おかげで本番では、自分の研究を自信を持って多くの方に伝えてくることができました。

残念ながら結果は上位入賞とはなりませんでしたが、出場された方々皆素晴らしい研究内容で、同じ学生として刺激を受けました。この出会いをこれからも大切にしていきたいと思います。

最後に、応援してくれた友人、協力してくださった方々、発表練習に最後まで付き合ってくくださったマーニー先生、そしてなにより、薬理学の一員として迎えてくださった小林教授をはじめとする先生方に、心より感謝申し上げます。
(第5学年)



オピニオン

○研修医が終わりはや6か月が過ぎた。大学院生という新しい肩書を得て、研究という今までに触れることのなかった世界に直面している。また臨床面において一人で患者を受け持ち治療を行っていく経験も初めてであり、充実した毎日を過ごしている。研究においても臨床においても不慣れなことが多く慌てるのが少なからずあるが、徐々に慣れていきたいと感じる。将来の目標はまだ不透明であるが今学んでいることが間違いなくプラスになると思っている。また受験生のころに持つことのできなかつた趣味の時間なども徐々に持つことができれば幸いだと感じる。大学院生活は残り3年あるが意外と長いようで短いかもしいない。悔いのないように毎日を過ごしていきたい。

(大学院1年 上道 一輝)

○歯科補綴学第I講座の大学院に入学して1年半が経過しました。臨床においては義歯の製作を通して「噛める」「食事ができる」という事の重要性を実感し、また研究は細菌学講座にて口腔細菌の呼吸器に対する為害性についての解明を行っています。先日、仙台で開催された老年歯科医学会にて初めてのポスター発表を行いました。抄録やポスターの作製など、わからない事だらけでしたが諸先生方のご協力のおかげで無事に終わることが出来ました。現在は臨床・研究・技工に追われ、忙しいながらも充実した日々を過ごしています。今の自分に驕ることなく、探求心をもち日々精進していこうと思っています。

(大学院2年 高橋 佑和)

○今回は昨年私が数週間入院した時に感じたことについて書きます。同室の患者さんは高齢で、歯が悪くて食べられないとよくぼやいていました。入れ歯は看護師が管理していましたが、不適合なのか共用洗面台に置き去り…そして驚くべきことに、私が退院するまでの間、その方が歯を磨いているところを

1度も見ませんでした。(実際は磨いていたかも?) 周術期口腔機能管理の実施施設は増加していますが、こういった患者さんは現実にまだ当たり前にいます。口腔と全身疾患について研究している身として、今回は複雑な思いをしましたが、それと同時に今後は微力でも周術期に貢献出来るように努力しようと改めて感じました。

(大学院3年 宮 千尋)

○大学院4年となり、入学当初は長いと思っていた大学院生活も残り半年です。研究と多くはないですが臨床を日々行っているとあっという間に時間が過ぎていきました。振り返ると多くのことを経験することができました。中でも論文作成は印象に残っております。当然ながら、読み手に分かりやすい内容を作成するのですが、それにとっても苦勞しました。この経験から、日々の臨床でも相手に分かりやすい説明を心掛けようと思っております。研究はまだ終わりではありませんが、残り少ない期間でやり遂げるよう精一杯努力していきます。

(大学院4年 三宅 悠介)

○口腔診断科に所属し、口腔顔面領域の慢性疼痛に対して臨床サイドおよび基礎研究の視点から適切な診断とその治療法の解明を進めています。臨床では三叉神経痛を含む慢性痛の患者さんの背景に潜む原因やきっかけを探っています。また、基礎研究では生理学教室において三叉神経痛とグリア細胞の関連性について日々実験に取り組んでいます。今年は海外を含め、多くの学会に参加し、自分の研究成果の発表と結果に対するディスカッションから、新たな研究ターゲットを模索しているところです。日進月歩の分野で、臨床・基礎両方の視点から痛みに対するアプローチができるのはとても楽しくやりがいのあることだと感じています。

(社会人大学院3年 浅野 早哉香)



学生支援室から

学生支援室では、皆さんが充実した学生生活を過ごせるように、様々な相談に応じています。どんなにささいなことでも、気になることや困っていることがあれば、気軽にご相談ください。電話相談【03-3219-8051(支援室直通)】、ご家族からのご相談も受け付けています。内容について秘密が漏れることは一切ありませんのでご安心ください。3号館1階玄関に入って右手奥に支援室の入り口があります。月曜日の昼休みは、本学教員が、水・木・金曜日の10時半～16時と火曜日の11時半～17時は、日本大学本部学生支援センター所属の臨床心理士が相談を担当しています(曜日ごとに担当するカウンセラーが異なります)。



ほけん室
から

インフルエンザ罹患後の 登校停止について

インフルエンザは、例年12月～翌年3月頃までが流行の時期です。インフルエンザウイルスの感染経路は、飛沫感染・接触感染です。インフルエンザ様症状(発熱・頭痛・関節痛・全身倦怠感・咽頭痛・鼻汁・咳等の症状)が出現した場合は、医療機関を受診してください。インフルエンザの診断を受けた場合は、学校保健法に基づき(発症日を0日と数えて)、発症後5日間は出席停止、かつ解熱後2日間を経過するまでは出席停止となります。大学に登校せずに、速やかに学生課(03-3219-8004)に電話連絡をしてください。インフルエンザの学内での感染経路を予防するため、学校保健安全法に基づく出席停止期間を厳守し、医師の指示に従い、治療に専念をしてください。インフルエンザによる出席停止期間の学業については、補講など補完対応を検討します。出席停止期間が経過し、登校する時は、必ず学生課で所定の手続きをしてください。

進学相談会の様子 6～9月

6月23日(日)・7月25日(木)・8月17日(土)・8月18日(日)に歯学部進学相談会が、6月23日(日)・7月21日(日)・8月17日(土)・9月14日(土)に附属歯科技工・衛生専門学校進学相談会が行われました。受験希望者・父母等合わせて714名の来場者がありました。

会場には教職員による相談コーナーや在校生のブースが設けられ、来場者からは入試科目や適性試験、校友子女入試などについての質問も多くありました。また、実習室において「体験実習」を行い、好評を博しました。

《問合せ先》

歯学部 教務課
03-3219-8002 E-mail:de.academic@nihon-u.ac.jp
附属専門学校 専門学校事務室
03-3219-8007 E-mail:de.ts@nihon-u.ac.jp



令和元年度 第2回 公開講座案内(11月)

日 時：令和元年11月9日(土) 13時30分～
場 所：歯学部4号館3階 第3講堂
講演者：歯科補綴学第I講座
専任講師 池田 貴之
歯科衛生士 本橋 碧
演 題：入れ歯の使い方—入れ歯を詳しく知りましょう—

NewsPlus α

☆令和元年度自衛消防訓練審査会

9月13日(金)旧今川中学校グラウンドにおいて、自衛消防訓練審査会が行われ、女子隊が出場しました。



学生生活

クラブ夏合宿一覧 (令和元年8月29日現在)

| | | |
|---------------|----------------------|-----------------------|
| アイスホッケー部 | 7/28～7/31 | 千葉県美浜区新港 |
| アメリカンフットボール部 | 8/2～8/3 | 長野県上水内郡飯綱町 |
| 合気道部 | 8/7～8/9 | 東京都千代田区 (通い合宿：歯学部) |
| 空手道部 | 7/25～8/1 | 東京都千代田区 (通い合宿：歯学部) |
| 剣道部 | 7/25～7/31 | 千葉県夷隅郡御宿町 |
| 硬式庭球部 | 7/31～8/11 | 千葉県長生郡白子町中里 |
| 硬式野球部 | 7/25～7/29 | 群馬県安中市仲宿 |
| ゴルフ部 | 7/29～8/2 | 群馬県高崎市吉井町岩崎 |
| サッカー部 | 7/25～7/30 | 熊本県阿蘇市黒川 |
| 自動車部 | 7/25～7/29 | 新潟県妙高市杉野沢 |
| 柔道部 | 7/25～7/31 | 東京都千代田区 (通い合宿：歯学部) |
| 水泳部 | 7/29～8/3 | 新潟県長岡市長倉町 |
| スキー部 | 7/26～7/30 | 群馬県利根郡片品村 |
| ソフトテニス部 | 7/26～7/30 | 千葉県長生郡白子町中里 |
| 卓球部 | 7/29～8/2 | 東京都千代田区 (通い合宿：歯学部) |
| 日本拳法部 | 7/22～8/1 | 東京都千代田区 (通い合宿：歯学部) |
| バスケットボール部(男子) | 7/25～7/28 | 静岡県賀茂郡東伊豆町稲取 |
| バスケットボール部(女子) | 7/27～7/31 | 日本大学松戸歯学部体育館 |
| バドミントン部 | 7/26～7/29 | 栃木県大田原市 |
| バレーボール部 | 7/25～7/28 | 千葉県長生郡白子町中里 |
| ボウリング部 | 8/3～8/4 | 福岡県福岡市博多区銀天町 |
| | 7/20, 25, 27, 29, 31 | 港区高輪 (通い合宿) |
| ヨット部 | 7/29～8/5 | 兵庫県西宮市 |
| 洋弓部 | 7/25～7/30 | 長野県下高井郡木島平村 |
| ラグビー部 | 8/11～8/15 | 長野県上田市菅平高原 |
| 陸上競技部 | 7/25～7/28 | 長野県上小内郡信濃町 |
| 軽音楽部 | 7/30～8/4 | 長野県下高井郡山内町 |
| 茶道部 | 7/26～7/27 | 東京都葛飾区 (通い合宿) |
| 写真部 | 7/27～7/28 | 群馬県渋川市伊香保町 |
| 生物部 | 8/13～8/15 | 静岡県伊東市川奈 |
| 美術部 | 7/25～7/28 | 群馬県吾妻郡草津町 |
| ワンダーフォーゲル部 | 8/6～8/9 | 群馬県利根郡片品村 |